

経営比較分析表（令和2年度決算）

宮崎県 三股町

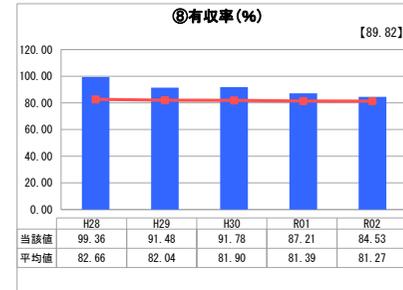
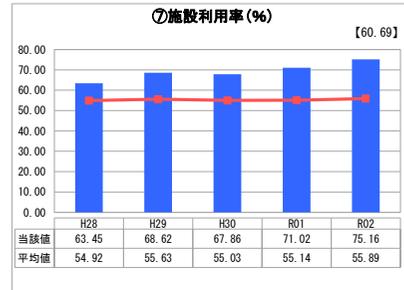
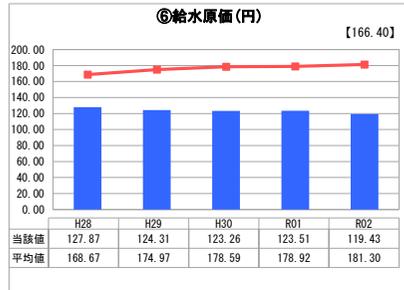
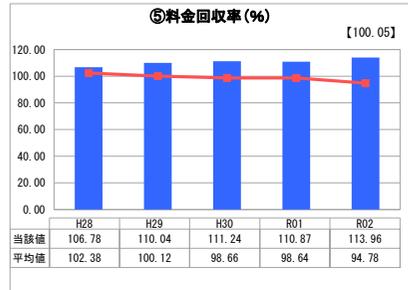
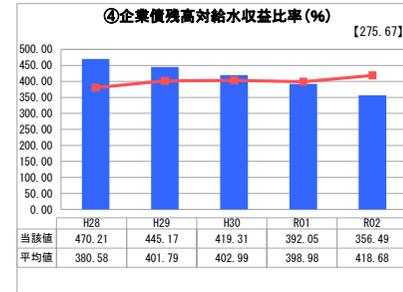
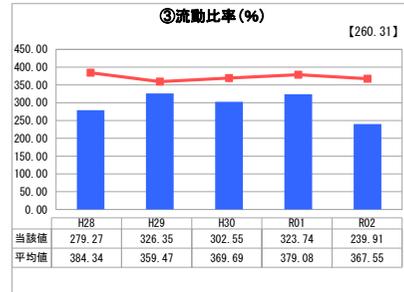
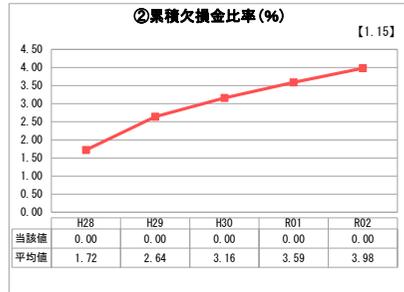
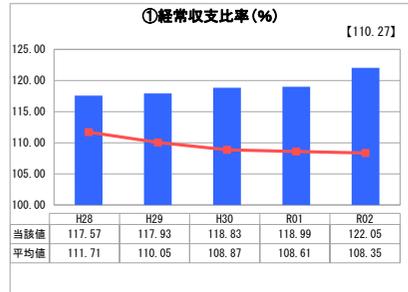
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	62.93	99.82	2,640	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,026	110.02	236.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,020	26.74	973.07

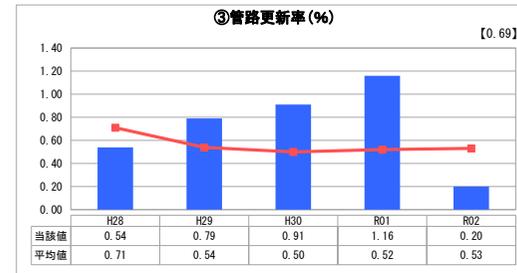
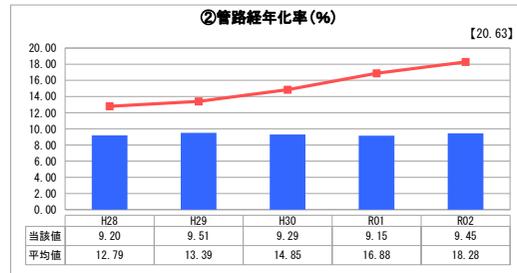
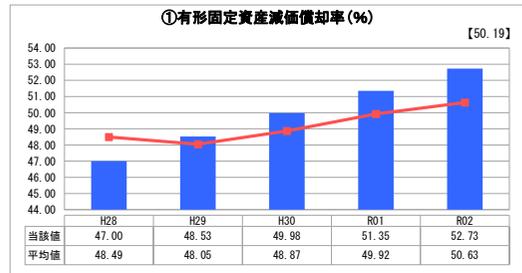
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を超え、昨年度より3.06%の増である。類似団体平均を13.7%上回り、H27年度より毎年増加している。維持管理費用等を賄えられる状況であり、健全な経営を維持している。

②累積欠損比率は、引き続き0%である。

③流動比率は、100%を超えているが、昨年度より83.83%の減で、類似団体平均より127.64%下回っている。計画的な執行で経営健全化を図っていききたい。

④企業債残高対給水収益比率は、H28年度より毎年減少している。類似団体平均値を62.19%下回った。今後は、計画的な施設更新を行っていききたい。

⑤料金回収率は、100%を超え、昨年度より3.06%の増となっている。また、類似団体平均よりも19.18%高くなっている。費用削減や更新投資等に充てる財源を確保し健全経営を図っていく。

⑥給水原価は、昨年度より4.08%の減で、類似団体と比べ61.87%低く、安価で提供できており、今後も継続していけるように投資の効率化や維持管理費の削減等、経営改善の検討も行う。

⑦施設利用率は、昨年度より4.14%の増で、類似団体との経年的な比較でも上回っている。現状及び将来の分析を行い適切な施設稼働を継続していききたい。

⑧有収率は、昨年度より2.68%の減となったが、類似団体平均値よりも3.26%高い。施設の維持管理に努め適切な施設稼働を継続する。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、年次的に増え、また類似団体の平均を上回っており老朽化が徐々に進んでいることを表している。更新等の財源の確保や投資計画が必要であるといえる。

②管路経年化率は、昨年度より0.3%の増で、年次的に増加している。類似団体の平均との比較では下回っている。今後も引き続き毎年計画的に、老朽化した管路の更新及び石綿管の交換を行い管路の老朽化対策に取り組みたい。

③管路更新率は、昨年度より0.96%の減で、類似団体との比較では0.33%下回った。今後も管路の更新ペースや状況の把握を行っていききたい。

全体総括

三股町は前年度より、人口は0.3%減少だったが、給水収益は1.7%増で、事業収入全体では2.7%の増となっている。一方、営業費用は0.6%減だったが、事業費用全体では0.7%の増となった。これらより、安定した経営状況と言える。

経営の健全性・効率性については、少子高齢化により人口減少が予想されることや、住民の節水に対する意識の向上等による収益の減少も考慮し、さらなる費用削減や経営改善の計画と実施が必要である。

また、老朽化の状況については、施設や管路の老朽化を経営戦略により、更新投資等に充てる財源の確保や投資計画等の見直しを行っていききたい。

経営比較分析表（令和元年度決算）

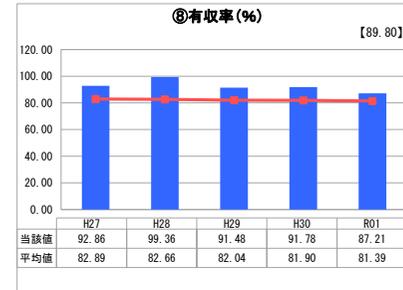
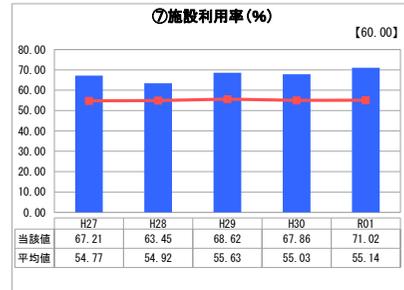
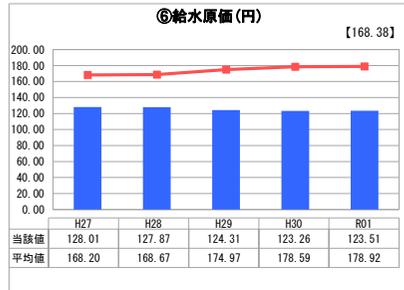
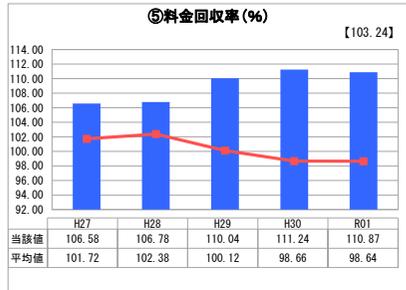
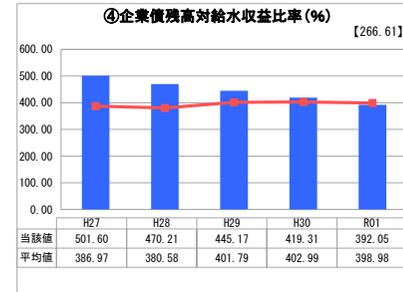
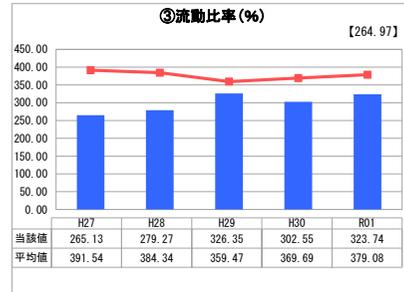
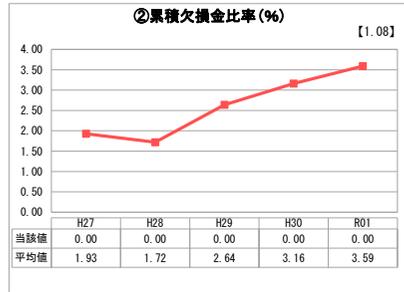
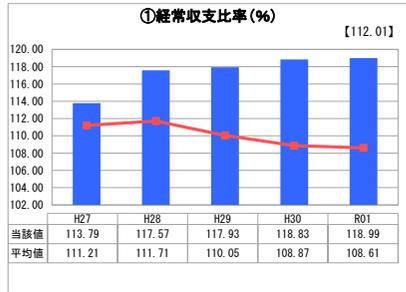
宮崎県 三股町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	61.73	99.85	2,640	

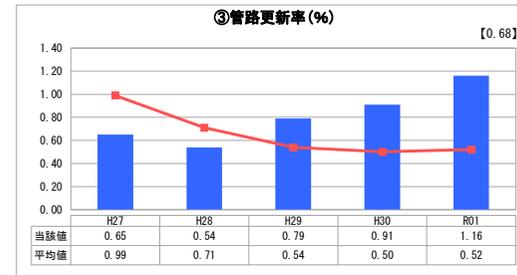
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,099	110.02	237.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,014	14.13	1,841.05

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、昨年度より0.16%の増、比率は100%を超えている。類似団体平均を10.38%上回り、H27年度より毎年増加。維持管理費用等を賄えられる状況であり、健全な経営を維持している。
 ②累積欠損比率は、引き続き0%である。
 ③流動比率は、昨年度より21.19%の増であるが、類似団体平均より55.34%下回っている。計画的な執行で経営健全化を図っていききたい。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を6.93%下回った。経年的に減少してきている。企業債の借入れ予定はなく給水収益に対する企業債残高の割合は減少していきと考えている。
 ⑤料金回収率は、100%を超え、類似団体平均よりも高くなっているが、昨年度を0.37%下回った。費用削減や更新投資等に充てる財源を確保し健全経営を図っていく。
 ⑥給水原価は、昨年度より0.25%の増だが、類似団体との比較では安価で提供できており、今後も継続してけるように投資の効率化や維持管理費の削減等、経営改善の検討も行う。
 ⑦施設利用率は、昨年度より3.16%の増で、類似団体との経年的な比較でも上回っている。現状分析を行い適切な施設稼働を継続していく。
 ⑧有収率は、昨年度より4.57%の減となったが、経年的に類似団体平均よりも高くなっている。施設の維持管理に努め適切な施設稼働を継続する。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、経年的に増え、また類似団体の平均を上回っており老朽化が徐々に進んでいることを表している。更新等の財源の確保や投資計画が必要であるといえる。
 ②管路経年化率は、昨年度より0.14%の減で、経年的に横ばいである。類似団体の平均との比較では下回っている。今後も引き続き毎年計画的に、老朽化した管路の更新及び石綿管の交換を行い管路の老朽化対策に取り組んでいきたい。
 ③管路更新率は、昨年度より0.25%の増で、経年的にも上がってきており、類似団体との比較でも0.64%上回っている。今後も管路更新に重点を置いた事業を行ってきたい。

全体総括

三股町は昨年度より、人口は0.2%増加したが、給水収益は0.4%減少で、事業収入全体では0.1%の減少となっている。また、営業費用は0.4%増加したが、事業費用全体では0.4%の減少だった。
 経営の健全性、効率性については、少子高齢化により人口減少も予想されることや、住民の節水に対する意識の向上等による収益の減少も考慮し、さらなる費用削減や経営改善の計画と実施が必要である。
 また、老朽化の状況については、施設や管路の老朽化を経営戦略により、更新投資等に充てる財源の確保や投資計画等の見直しを行っていく必要がある。

経営比較分析表（平成30年度決算）

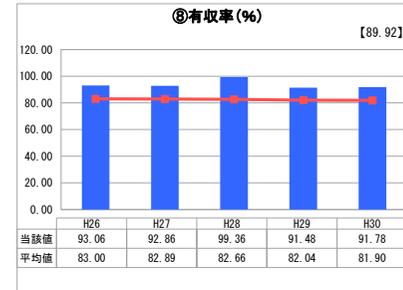
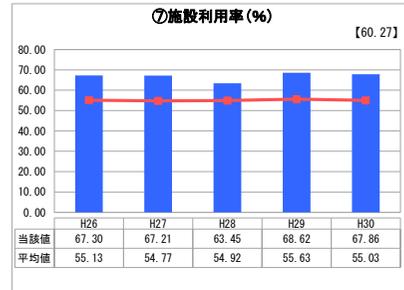
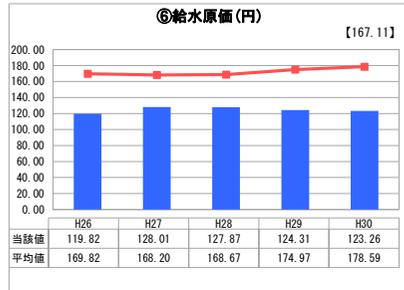
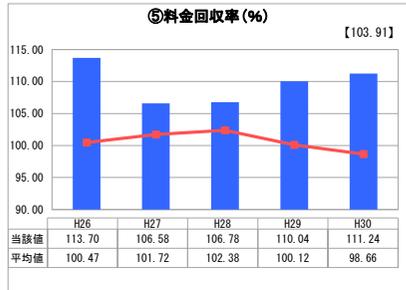
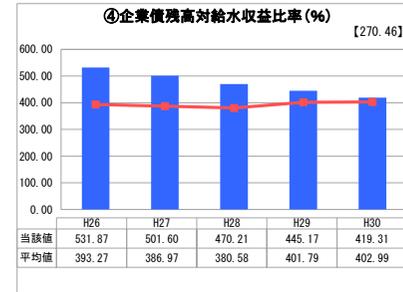
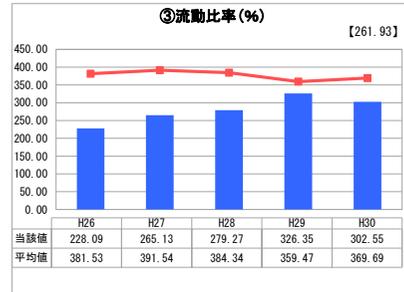
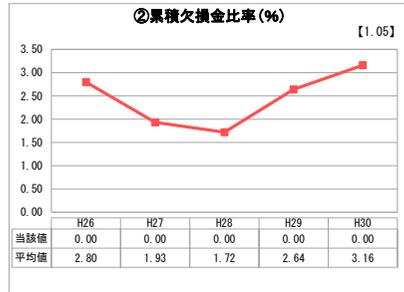
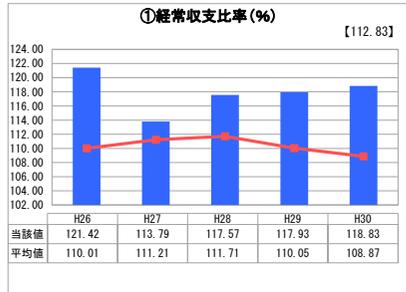
宮崎県 三股町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.13	99.86	2,592	

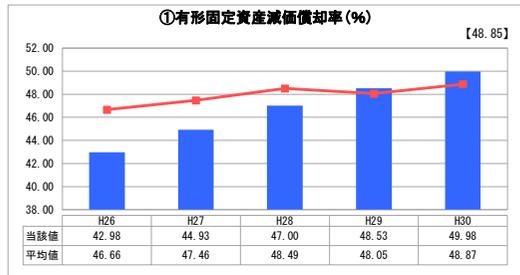
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,081	110.02	237.06
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,964	14.13	1,837.51

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、昨年度より0.9%の増で、比率は100%を超えている。類似団体平均より9.96%上回り、平成27年度より毎年増加が続いている。維持管理費用等を賄えらるる状況であり、健全な経営を維持している。
- ②累積欠損金比率は、引き続き0%である。
- ③流動比率は、昨年度より23.8%の減であるが経年の比較では増加している。計画的な執行で経営健全化を図っていききたい。
- ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値と比較すると少し上回っているが、経年的にはその差は少なくなってきた。企業債の借り入れ予定はなく給水収益に対する企業債残高の割合は減少していきと考えられる。
- ⑤料金回収率は、100%を超え昨年度を上回り、類似団体平均よりも高くなっている。今後とも費用削減や更新投資等に充てる財源を確保し健全経営を図っていく。
- ⑥給水原価は、類似団体と比較して安価で提供できており、今後も継続していけるように投資の効率化や維持管理費の削減等、経営改善の検討も行う。
- ⑦施設利用率は、類似団体と経年比較しても高い数値にあり、今後とも現状分析を行い適切な施設稼働を継続していく。
- ⑧有収率は、経年の90%を超え類似団体平均よりも高くなっている。今後とも施設の維持管理に努め適切な施設稼働を継続していく。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、経年的に増え、また類似団体の平均を上回っており老朽化が徐々に進んでいることを表している。更新等の財源の確保や投資計画が必要であるといえる。
- ②管路経年化率は、経年的に横ばいであり、類似団体の平均との比較では低くなっている。今後とも引き続き毎年計画的に、老朽化した管路の更新及び石綿管の交換を行い管路の老朽化対策に取り組んでいきたい。
- ③管路更新率は、上がってきており、類似団体との比較でも上回っている。今後とも管路更新に重点を置いた事業を行っていききたい。

全体総括

三股町は、人口が増加しており給水収益も減少傾向にはないが、後は少子高齢化により人口減少も予想されることや、住民の節水に対する意識の向上等による収益の減少も考慮し、さらなる費用削減や経営改善の計画と実施が必要である。

また、施設や管路の老朽化についても経営戦略により、更新投資等に充てる財源の確保や投資計画等の見直しを行っていききたい。

経営比較分析表（平成29年度決算）

宮城県 三股町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	57.15	98.22	2,592	

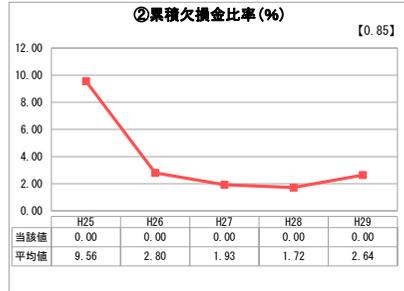
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,048	110.02	236.76
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,536	14.13	1,807.22

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

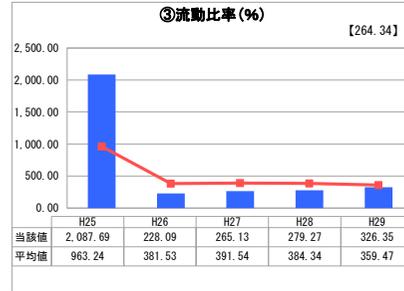
1. 経営の健全性・効率性



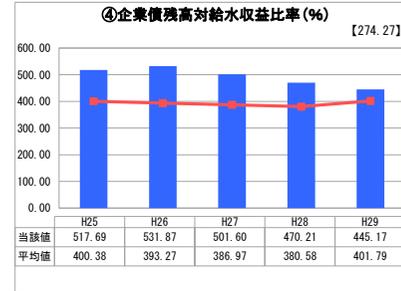
「経常損益」



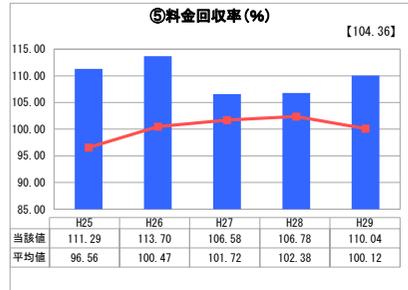
「累積欠損」



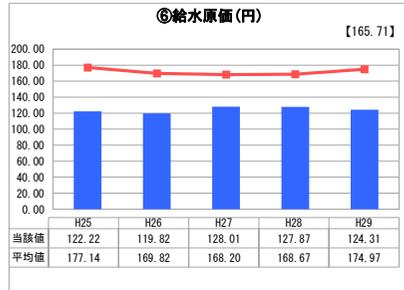
「支払能力」



「債務残高」



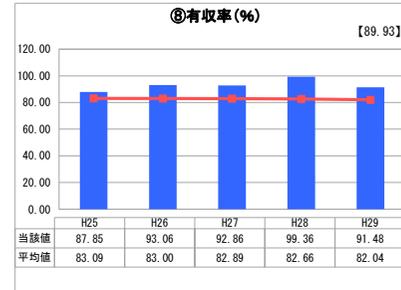
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

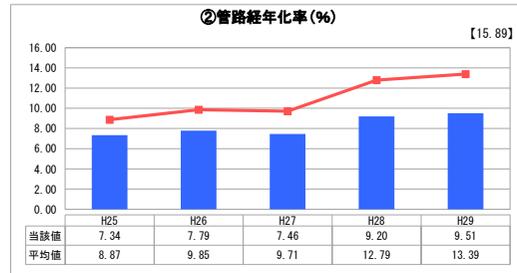


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、100%を超えており、また類似団体平均も上回っている。今後も給水収益等の収益で水道事業の維持管理等の費用を十分賄える状況であり、健全な経営状況の維持が可能と考える。
- ② 累積欠損金は無し。
- ③ 流動比率については、流動資産は増加傾向にあり、流動負債については減少傾向にある。類似団体平均との差もわずかとなっている。このことにより、今後とも計画的な予算執行を行うことで経営の健全化を図っていく。
- ④ 企業債残高対給水収益比率については、類似団体平均値と比較すると、かなり高くなっているが、現在のところ施設管路等の老朽化に伴う企業債の借入予定はないため、給水収益に対する企業債残高は今後も減少していくと考えられる。
- ⑤ 料金回収率については、100%を超えており、類似団体平均値よりも高くなっている。今後と更新投資等の財源を確保するとともに、更なる費用削減を行うことで経営の健全化を図っていく。
- ⑥ 給水原価については、類似団体と比較すると安価で供給できており、今後と継続して費用の効率性を図っていく。
- ⑦ 施設の効率性については、類似団体平均値と比較すると高い数値にあり、今後も適切な施設稼働を継続していく必要がある。
- ⑧ 有収率については平均で90%以上となり、今後も適切な施設稼働を継続していく。

2. 老朽化の状況について

- 「施設全体の減価償却の状況」については、有形固定資産減価償却率で表れているように、平成23年度から継続して行われてきた施設更新事業が平成26年度で終了したことで、いったん減少したものの、それ以降徐々に増加している。
- 「管路の経年化の状況」については、毎年、計画的に管路の更新を行っているため、管路の老朽化率は徐々に減少していくと考えられる。今後も計画的な更新を行い、老朽化対策を進めていく必要がある。
- 「管路の更新投資の実施状況」については、平成26年度で施設更新事業が終了したのに伴い、27年度以降は管路更新事業を重点的に実施しており、管路更新率は今後さらに改善していくと考えられます。

全体総括

三股町は、県内の町村でも唯一人口が増加しており、給水収益も年々増益傾向にあり健全経営が図られているといえる。しかし、今後少子高齢化により人口が減少することが予想されることや、住民の節水に対する意識の向上により、収益が減少することも考慮し、更なる費用削減が必要となっている。

また、施設の老朽化についても、資産管理することでの更新時期に備えるため、計画的に整備を行う必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成28年度決算）

宮崎県 三股町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり定額料金(円)	
-	54.59	98.09	2,592	

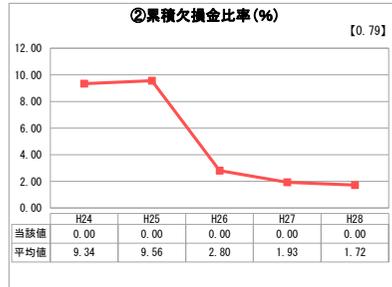
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,054	110.02	236.81
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,530	14.13	1,806.79

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

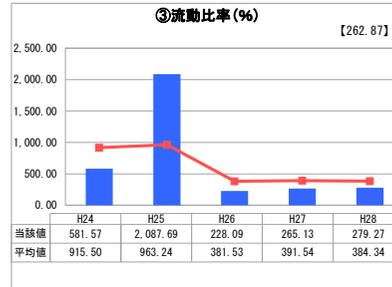
1. 経営の健全性・効率性



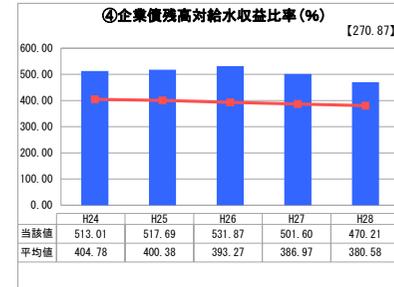
「経常損益」



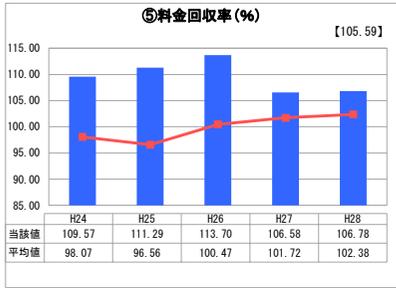
「累積欠損」



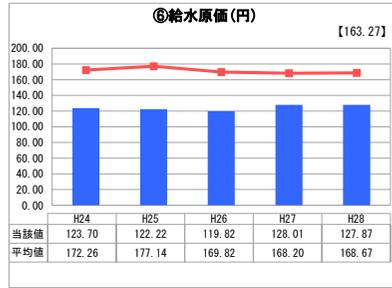
「支払能力」



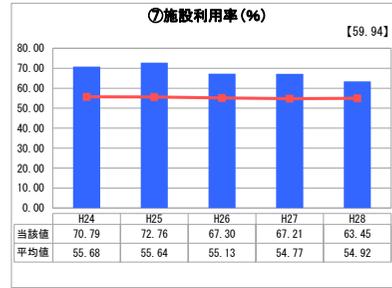
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

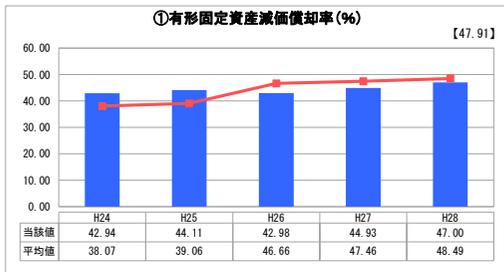


「施設の効率性」

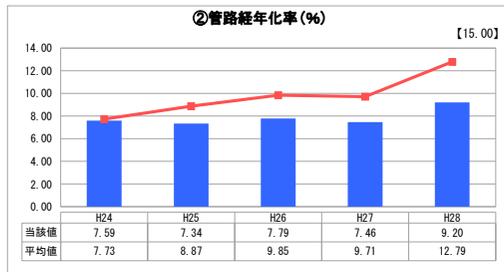


「供給した配水量の効率性」

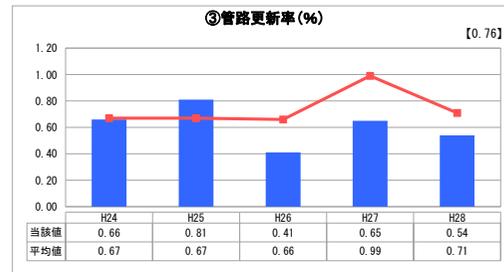
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、黒字であることを示す100%以上となっており、類似団体平均値より上回っています。また、昨年度からすると3.78%の増となっています。今後とも給水収益等の収益で維持管理等の費用を十分に賄えると考えられ健全な経営となっています。
- ② 累積欠損比率はありません。
- ③ 流動比率については、流動資産は増加傾向にあり、流動負債については減少傾向にあります。このことにより、今後とも計画的な執行を行うことで経営の健全化を図っていきます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率については、類似団体平均値と比較するとかなり高くなっていますが、現在のところ施設管路等の老朽化に伴う起債の借入予定はないため、今後とも給水収益に対する企業債残高の割合は減少していくと考えられます。
- ⑤ 料金回収率については、100%を越え回収率は類似団体平均値よりも高くなっています。今後とも更新投資等の財源を確保するとともに更なる費用削減を行うことで経営の健全化が図られます。
- ⑥ 給水原価については、類似団体と比較すると安価で供給できており、今後とも継続して安い費用で賄えることがわかります。
- ⑦ 施設の効率性については、類似団体平均値と比較すると高い数値にあり今後とも適切な施設稼働を継続していく必要があります。
- ⑧ 有収率については、年々100%に近づいており、今後とも適切な施設稼働を継続していきます。

2. 老朽化の状況について

「施設全体の減価償却の状況」については、有形固定資産減価償却率で表れているように、数年間継続してきた施設更新事業が平成26年度で終了したことにより、減価償却率は平成26年度いったん減少したものの、現在は徐々に増加していくと考えられ、類似団体と同じ状況がつつと考えられます。

「管路の経年化の状況」については、昨年度に比べ1.8%増加したものの、毎年、計画的に老朽化した管路の更新を行い石綿管の交換等を実施しているため、管路の老朽化は徐々に減少していくと考えられます。今後とも計画的な更新を行い、老朽化対策を進めていく必要があります。

「管路の更新投資の実施状況」については、昨年度に比べ0.09%減少しているものの、現在は管路更新に重点をおいた事業を実施する為、管路更新率は徐々に改善していくと考えられます。

全体総括

三股町は、県内の町村でも唯一人口が増加しており、給水収益も年々増益傾向にあり健全な経営が図られているといえます。しかし、今後少子化により人口が減少することが予想されることや住民の節水に対する意識の向上により、収益が減少することも考慮し、更なる費用削減が必要となっています。

また、施設の老朽化についても、資産管理すること今後の更新時期に備えるため、計画的に整備を行う必要があります。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。